

10月10日 テモテへの手紙二 2章1~13節 今日の説教から

説教題：「あなたに支えられて」

私たちの住む日本という国は、かつて戦争を行い、敗戦の結果長く貧しい時代を味わいました。戦争の愚かさと残酷さをよくよく聞かされている私たちは、今日の聖書箇所でパウロがテモテに対して進める「イエス・キリストの立派な兵士となりなさい」という言葉をどのように受け止めればいいのでしょうか。

兵士としての仕事は戦う事であり、それまで自分が担っていた仕事を離れることを許されて、戦う事だけを考えて生きることが求められます。パウロはこの兵士を指して、私たちに

「兵士のように暴力をふるえ」と言っているわけではありません。戦争に向かう兵士たちの仕事が上官に従って暴力によって何かをなすことだとすれば、イエス様を頭とした兵士の仕事はその逆、「イエス様に従って平和を実現すること」なのです。

神様がこの世の人々に対して愛を示してくれたからこそイエス様がこの世に遣わされ、そしてイエス様は十字架へと歩みました。私たちキリスト者はイエス様が自分たちのために十字架にかかり、血を流して命を使って私たちの罪を贖ってくれたことを、実感をもって理解しています。それは、私たちが何か特別に神様から選ばれてキリスト者として洗礼を受けているのではなく、ただ神様からの愛の業として、すべての人々に愛の手が延ばされていると知ったからこそ、私たちはそれに応えることができているのです。

ただ、私たちの信仰の道は決して何も考えずに続けられるものではありません。兵士としての訓練が過酷で、戦争の中で多くの人々が命を失うように、「平和を実現する兵士」として生きる私たちの歩みは、決して穏やかなだけではありません。生きている中で襲い来る様々な誘惑・欲望を耐え抜き、イエス様を頭として戦い抜く兵士としての従順さが求められるのです。私たちが間違ってしまいそうなときも、神様の御言葉を、イエス様の福音を頼りにすれば正しい信仰へと立ち返ることができます。その恵みによって支えられ、私たちは信仰を生きることができています。

私たちの江刺教会も、その前身の岩谷堂バプテスト教会の時代、戦争の時代に正しい福音を宣べ伝えることができない状況に追い込まれました。信仰者を管理するための宗教団体法によって縛り付けられた当時の教会は、自由にイエス様の福音を宣べ伝えることができる状況ではありませんでした。そのような激動の時代において、教会を作り上げた足達信三郎先生の、そしてハワイへの伝道に向かった後藤鎮平先生の蒔いた種は、時代を経て確かにこの地で芽吹き、同じ根っことして私たちの江刺教会とつながっています。

私たちは、はるか100年以上前からこの岩谷堂の、この江刺にまかれた信仰の種によってこの地に教会が生まれ、多くの牧師先生たち・兄弟姉妹の手によって教会が支えられ、時に戦争という大きな災いの中でそれが途切れそうになってしまっても、その信仰の種は確かに神様の手に守られて今日この時まで支えられてきたということを、今かみしめることができます。はるか過去から今に至るまで先達によって教会が支えられてきたことを覚えるこの日が、先達の働きによって今日この時まで教会が支えられてきたことを祝う創立記念礼拝と同じ日であり、そして教会の未来を担うことになるこれから伝道者・牧師の育成の場である神学校を覚える日が同じ礼拝の時であることは、私たちの神様が「過去に存在した神様」ではなく、今もなお私たちに働きかけてくれていて、未来の教会のことも確かに支え続けてくれる神様であることを知る私たちにとって、とても豊かなことではないでしょうか。そしてそれは、私たちの教会が、次の100年後も同じくこの地において確かにイエス様を証しすることができる、これからもこの地に福音が確かに根付いていく、そう感じができる大きな希望もあります。

岩谷堂バプテスト教会、江刺伝道所、江刺教会の創立、そしてもちろん江刺保育園や聖愛ベビーホーム、聖愛育成会によってこの地に確かに福音が根付いていることに、そして何よりそれらがすべて神様によって支えられながら信仰の先達が私たちのもとへと運んできてくれたことに感謝を捧げながら、今週一週間の、これから歩みを共に進めましょう。

## 今日の説教箇所：テモテへの手紙二 2章 1～13節

- 1:そこで、わたしの子よ、あなたはキリスト・イエスにおける恵みによって強くなりなさい。そして、多くの証人の面前でわたしから聞いたことを、ほかの人々にも教えることのできる忠実な人たちにゆだねなさい。キリスト・イエスの立派な兵士として、わたしと共に苦しみを忍びなさい。兵役に服している者は生計を立てるための仕事に煩わされず、自分を召集した者の気に入ろうとします。また、競技に参加する者は、規則に従って競技をしないならば、栄冠を受けることができません。労苦している農夫こそ、最初に収穫の分け前にあずかるべきです。わたしの言うことをよく考えてみなさい。主は、あなたがすべてのことを理解できるようにしてくださるからです。
- 8:イエス・キリストのことを思い起こしなさい。わたしの宣べ伝える福音によれば、この方は、ダビデの子孫で、死者の中から復活されたのです。この福音のためにわたしは苦しみを受け、ついに犯罪人のように鎖につながれています。しかし、神の言葉はつながれていません。だから、わたしは、選ばれた人々のために、あらゆることを耐え忍んでいます。彼らもキリスト・イエスによる救いを永遠の栄光と共に得るためです。
- 11:次の言葉は真実です。「わたしたちは、キリストと共に死んだのなら、／キリストと共に生きるようになる。耐え忍ぶなら、／キリストと共に支配するようになる。キリストを否むなら、／キリストもわたしたちを否まれる。わたしたちが誠実でなくても、／キリストは常に真実であられる。キリストは御自身を／否むことができないからである。」